

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎年法人の理念と事業所の運営方針をもとに目標を立案している。事業所目標をもとに各フロア目標を立案し職員が個人目標を立案する。期末には目標に対して反省を行い評価・面談を行っている。	法人理念・事業所理念は目に付く各所に貼り、唱和もしています。『私たちは、お客様がその人らしく生きることを支えます』を、日々の実践の中で生かしています。事業所目標・フロア目標が、職員の自己成長目標にもなる様に、自己評価にアドバイスし、次期へ繋がる取り組みをしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	本来であれば運営推進会議を軸にボランティアや行事等で交流を図っているがコロナ感染の流行により外部との交流が出来なくなっている。感染リスクに配慮した形での交流(消防団による避難訓練や福祉広場への作品展示等)を行っている。	コロナ禍に於いて、過去に出来ていた地域やボランティアとの交流ができないが、福祉広場への作品展示が出来た。医師と相談しながら、コロナを持ち込まない取り組みで、車から降りない形でお花見等のドライブ、近所の方と畑でのあいさつを交わしています。ご家族との電話も、事業所から積極的に掛けて、ご本人と会話して頂くようにしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	上記同様、本来であれば認知症サポーター養成講座などに協力したりする。認知症についてのご相談等を頂いた場合には経験を活かしたアドバイスを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1度開催される運営推進会議が感染対策の為書面での報告となっている。会議メンバーだけでなく、入所されている利用者のご家族様全員に郵送し施設内での取り組みを写真も掲載し報告している。	コロナ禍で運営推進会議は、書面での開催と報告になっています。報告は推進会議のメンバーだけでなく、利用者様のご家族全員に、行事や日常の様子が分かるように、写真をふんだんに使って、郵送で報告をしています。ご家族から好評との事です。会議録と報告書類で確認しました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	主には地域包括支援センターを中心に運営推進会議などで連携している。感染対策の為、松本市からの派遣相談員の訪問は現在ない状態となっている。	市町村との連携は、運営推進会議のメンバーにもなっている、地域包括支援センターを中心に連携しています。感染予防に留意し、医師や法人本部と相談しながら、福祉広場に作品展示を行うなど繋がりが保てています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行ったことがなく、今後も行わない。法人内の身体拘束廃止についての研修も毎年実施している。	以前は集合しての研修もあったが、コロナ禍で法人全体で、研修計画を立てている。身体拘束は行ったことが無い。ネット・動画などで、身体拘束は行わないWeb研修を毎月実施しています。出席簿と、振り返りシートを見せて頂き確認しました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人内で虐待防止についての研修を毎年実施している。また、外部研修の受講に行くこともある。言葉使いや接遇の中でも取り扱い指導している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人内で権利擁護についての研修を毎年実施している。また、現在の入所者の中で成年後見制度を利用されている方がいらっしゃいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時には約款などのご説明をしっかりとごこなってから同意のうえでご署名を頂いている。法改正の際などは説明文を郵送して周知し、疑問点などある場合はお問合せ頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご意見箱を玄関に設置し記入しやすいようにアンケート形式の書式を用い意見を募っている。また面会時等に頂いた何気ないご意見やご要望も職員間で周知し把握、対応に努めている。	コロナ禍で面会の機会も少なくなり、また介護レベルも少しずつ上がっていることもあり、事業所からご家族のお話を聞く機会を持つようにしている。面会時や電話で何気なくお聞きした情報を大切に、今までの暮らし振りからヒントを頂いています。頂いた意見や要望を職員間で共有して周知し、ご意見を生かす対応をされています。会議録は書類で確認しました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員満足度アンケートを実施している。意見を踏まえ運営に活かしている。毎月の会議や、話し合いを通じて職員の意見を取り入れている。	職員のモチベーションを大切に、法人で満足度アンケートやストレスチェックも実施しています。職員の感性に繋がる、気づきや業務改善をフロア全体で共有し、毎月の会議で担当と話し合うなど意見を取り入れる様にしています。また内容にも拠りますが、職員は法人の医師を受診することができます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	キャリアパス制度を導入している。キャリアごとに求められている事や研修体系、賃金などが詳細に公表されている。また個人面談等も定期的におこなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内の研修が毎月あり全員参加できるように取り組んでいる。また、県社協等への施設外研修にも経験に応じて参加している(感染対策の為WEB研修が中心となった)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	感染対策の為、外部との交流は難しくなったが、法人内の全事業所職員が集まり委員会や勉強会を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面談などでご本人様のご意向を丁寧に聞き取るようにしている。安心した生活が送れるように入所前の生活についても出来るだけ細かく聞き取り本人にとって生活しやすい環境となるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様が何に一番不安で困っているのか今後どのような生活をしてほしいと望んでいるのか、ご本人同様に意向確認も丁寧に行っている。入所後もご家族との関わりが継続できるような支援を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホームについての説明と合わせて法人内の全事業所の特徴も説明するようにしている。希望があれば見学や申し込みなど連携を図り、ご要望にお応えできるようサポートしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人の得意とすること、望んでいることを実際の日常生活の中で実践出来るようにケアプランに取り組み個別ケアを大切に關わっている。役割を持つこともケアプランにあげたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	感染予防のため、面会制限が続いた中でも医師と情勢を確認しながら短期間であっても面会制限の緩和が図れるときを見逃さないよう対応した。その他、電話での交流やお手紙の活用を定期的に行った。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本来であれば外出支援や、面会も自由に行えるが、感染予防のため外出や面会が出来なかった。ご家族様に協力頂き、家族の写真などを持参してもらい居室に飾ったり、施設からも写真付きのお手紙を郵送したりと工夫した。	感染予防の為、外出支援や面会も出来ないことが多かったが感染レベルが下がった一時期は、電話で面会の働き掛けをして、室内でビニールシート越し、戸外と窓越しなど、面会できる工夫をしました。浴衣まつりを開催し、ご家族に自宅に有った浴衣を持参頂き、皆さんの写真を撮影してご家族に送りました。字を書ける方は年賀状を書き、スタンプ・シールなどでも作成しお送りしました。ご家族からも孫が生まれたご連絡や、差し入れを頂く事もあり交流を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食堂では気の合う方と近い席になるように配慮している。また、1階と2階の交流も盛んに行い、行ったり来たりとフロアが違って一緒にお料理や書道、レクへの参加等を楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ここ最近のサービスの終了は看取りを経て退所される方のみとなっている。落ち着いたであろう頃に連絡させて頂き、話を伺ったり思い出話をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的な意向確認を行っている。利用者の重度化も進み、本人から直接意向確認が出来ないケースも増えている。その場合には生活歴や普段の関わりの中から表情や反応を観察しケアプランに取り入れ都度見直しを図っている。	入所時は歩いていた方も、年月の経過と共に、介護度が上がり、車いすへと変化します。定期的に、また変化が見える都度に意向確認を行っています。本人から直接に確認が出来ない場合、ご家族に連絡を密に取っています。普段の関わりの中で状態や反応を観察しながら、ケアプランの見直しに反映させています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時の情報収集はもちろんだが、入所後に関わりの中からご本人からもご家族様からも得る情報量はとても多く、支援に活かすよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	自立支援を目標に一人ひとりの持っている力、出来る事を職員全体で把握するようにしている。身体状況やご本人の意向に応じてそれぞれの時間の過ごし方を尊重しケアプランの実施状況も記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	必ずご本人の意向確認を行ったうえでカンファレンスを実施している。外出や家族との関わりを一番の意向としていた利用者もいたが感染予防のため、その中でもできる事を探しご本人の思いを反映させたケアプランへ変更したケースもあった。	コロナ禍ですが体調を管理しながら、ご家族とのつながりを大切に、一緒に買い物に行きたい・一緒に居たいなど本人の希望に沿って支援しています。足踏み、階段を利用するなどして、歩くための歩行練習もしています。また食事の下準備、洗い物など出来る事をケアプランに反映して支援しています。ケアプランも書類で確認しました	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプラン評価用紙とその日の様子や医療面などを記録する用紙の2種類に毎日必ず記録を残すようにしている。記録を振り返りながらモニタリングやケアプランへも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	買い物や受診などに対応している。本来であれば外出支援も含まれ、外食や自宅への外出、施設以外の場所で家族と関わる時間が持てる支援も行っており、情勢が落ちつき医師の了解が得られたら再開したい。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	本来であれば地域のボランティアの方々が来設し手作業や歌、紙芝居などを楽しむ時間を提供しているが現在は制限されている。その中でも時々ボランティアの方が手作りして下さった季節の飾り(鯉のぼりやお雛様等)を届けて下さっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所時に主治医について説明をし協力医を選択できることを伝えている。協力医や訪問看護と連携し適切な医療を受けられるよう支援している。また看取りの際も連携を図り対応している。	協力医以外の受診や、緊急時は職員が付き添い、入院などの対応も行い、適切な医療が受けられる支援をしています。協力医と週1回の訪問看護との連携で記録もしっかり残されて、24時間の安心できる体制が取られています。記録の書類を確認させて頂きました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週水曜日の訪問看護の日に1週間分の伝達事項を記録し伝達している。また、訪問看護からの指示等も同様に記録に残している。24時間体制で連絡が取れるようになっており、内容に応じて対応・連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時から介入している。入院中の連携も病院のソーシャルワーカーやご家族様、主治医、訪問看護と図り、状況の把握に努め退院時に備えている。退院時や退院後の通院なども含め支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時にグループホームでできる事・できない事を説明し看取りに関する現在の意向も確認する。重度化が進んできた際にも段階的にご家族の意向など適宜確認するようにしている。グループホームで自然な形の看取りを希望された際には主治医を中心に看護師とも連携している。	入所時のグループホームで出来る事、出来ない事の説明は書類でも確認ができました。見極めは、お風呂に入れない状態になった時に、法人には特養もあり、専門職も居るので、移るかの判断はご本人とご家族に相談しています。段階を踏んで、自然な看取りのご希望も増え、その際は主治医を中心に看護師と連携し対応しています。看取り時は面会を随時させて頂き、看取り後はデスクカンファレンスによる振り返りも行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	法人内で救命救急講習会を毎年行っている。事故発生時や夜間の急変時などの対応マニュアルを作成し施設内の電話口などに提示してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練を実施している。うち1回は地域の消防団に協力して頂き実施後にはアドバイスなども頂いている。水害に対する訓練も行い、2階への避難や土嚢使用などの実践も行っている。	災害の避難訓練は、消防署への通報を始め、火災の他、水害対策も実施し、内1回は地区の消防団に協力して頂きました。担架で階段の上り下り搬送も行いました。外への避難は寒さ対策にもなる頭巾やひざ掛けも着用しました。備蓄は食材、パッド、毛布など用意。法人本部も近く応援・支援も得られます。訓練記録も確認しました。	災害対策に万全は無いのですが、コロナ禍で、運営推進会議での地域の自治会など連携が薄くなっています。地域防災協定などを結べるように期待いたします。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	法人内で尊厳保持やプライバシーなど接遇研修を毎年行っている。また施設外の研修にも参加している。利用者の個室、浴室などプライバシーが確保しやすい環境が整っており職員の言葉使い等の指導も行っている	法人全体で、以前は外部で接遇研修を受けて、個人の尊厳・プライバシーに配慮する環境を整えています。職員の態度や言葉使いには、個別に指導をしています。コロナが少し落ち着いた時期に、1回は塩尻市での研修を受講しました。他はWebでの研修を全体で共有しています。研修記録で確認しました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	認知症の症状に応じ2択にするなどその方に合わせた声掛けを行い、出来るだけ自己決定が出来るよう関わっている。日常の中の些細な事も本人の気持ちや希望を聞きながら対応するよう指導も行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	小規模だからこそ出来る時間に縛られない支援やご本人の思いに寄り添う事を大切に個別ケアを重視している。認知症の症状や特徴にも着目しその方に適した支援提供を目指している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	基本的にはご本人が着る衣類を選ぶ支援を行っている。それぞれのこだわりや習慣も理解したうえで介助介入を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	身体機能に応じた家事作業を全体で行い、実際に食事づくりが出来る方には台所で調理もして頂いている。畑で野菜を作り育て、収穫から調理まで職員と一緒に携わって頂いている。おやつ作りなど全体で行う事もある。	その方に応じた、食事の下準備など身体機能に応じて手をお借りしています。畑で夏野菜を作り、収穫には皆さん喜んで参加して、みそ汁や煮物の材料にします。おやつ作りは毎月計画し、またその日に思い立ってやることも。Xmasの時はクッキーの型抜きをやって頂きました。写真の記録も拝見しました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分摂取量を毎日記録し体重測定も定期的に行い主治医にも報告している。嚥下障害でペースト食の方も増えているがメニュー説明をしながら楽しめる食事介助を心掛け、適宜ペースト食の作り方や見栄えについても会議の議題として取り上げたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食前のうがいと食後の口腔ケアを徹底して行っている。ご自分で出来るところまでは行って頂き最後の確認仕上げは職員が介入し清潔の保持や誤嚥性肺炎の予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェックシートを活用し排泄パターンの把握に努めている。尿意便意が曖昧であっても時間でトイレへお連れし使用できるようにしている。また動作も出来る範囲はご自分で出来るよう声をかけながら自立支援に取り組んでいる。	健康状態を把握できる排泄チェックシートで、パターンを把握し、トイレにお誘いしています。尿・便量もシートを活用し把握しています。身体的な認知や機能も落ちてきますが、ご自分で出来る動作を声掛けして支援しています。排泄は、足踏みトレーニング、食材も工夫して薬に頼らない取り組みもしています。排泄チェックシートを確認しました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	適切な排便ケアのため、医師や訪問看護と連携し便性スケールや便量スケールを活用している。また、下剤だけに頼らず運動や水分摂取、食物繊維の多い食材や乳製品などの提供等も合わせて行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴日は原則決めず、本人の意向のもと実施している。季節のお風呂(ゆずや菖蒲等)や入浴剤を選ぶ楽しみも味わって頂けるよう工夫をしている。1対1で安全で快適な入浴時間となる事を重視している。	お風呂嫌いな方も誘える様に、入浴日は決めては無く、お気に入りの洋服に着替えること、または入浴剤を選ぶ楽しみや季節の柚子・菖蒲など工夫をして、入浴までの気持ちを維持できる様に配慮しています。入浴時は全身の観察も留意しながら、会話も弾み、安全で楽しい時間となる様に支援しています。好きな音楽を掛けるなど、雰囲気作りもアドバイスしました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	朝が苦手な方は朝食時間をずらしたり、夜は少し遅くまで食堂でTVをみながら過ごすなどその時々で臨機応変に対応している。ただ昼夜逆転などで生活リズムが大きく崩れないよう夜間の睡眠状態を観察し配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入所者全員分の内服薬の一覧を毎月更新しながら把握に努めている。内服薬に変化があった際には職員全体に周知が必要があれば経過を追うための記録も残すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯たたみやお皿拭き、野菜の下準備等慣れ親しんだ作業を役割として担って頂いている。職員から感謝の言葉を伝えられ本人のモチベーションにも繋がっている。人それぞれに好きなお菓子を選んで頂くおやつ提供やバイキング形式など楽しみの一つとして提供している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	感染予防のため、外出が出来ていませんが天気の良い日に畑への収穫や施設の周りを散歩したりお花見ドライブなどを実施している。医師と連携を図り感染リスクが下がったらお買い物や自宅への訪問、外食など個々に合わせた外出支援をぜひ再開したい	コロナ禍の為、この2年間近く、交流を含む外出は支援できていません。利用者の皆様に少しでも外の空気に触れて頂くため、畑で作った野菜の収穫をする際や散歩で近所の方と挨拶したり、車を降りずお花見を楽しむドライブなどを実施しています。レントゲンの受診に外出して、久しぶりだと喜ばれたそうで、今後感染リスクが下がったら本人やご家族の希望に合わせた外出支援を是非とも再開していただきたい。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族にご理解いただき、個々でお小遣いをお預かりしている。ご本人が欲する物を購入したり自由に使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	面会制限もあり、ご家族に電話して会話を楽しんで頂いている。またご家族にも時々電話をして頂きお話ししてほしいと声をかけている。手紙は定期的に郵送しご家族様にも喜んで頂いている。家族宛に年賀状も一人ひとり作成している。友人と頻回に手紙のやり取りをされたケースもあった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	冷暖房が完備され過ごしやすい室温を保っている。施設内は毎日清掃し、施設全体で5S活動にも取り組んでいる。季節感を感じて頂けるように折々の装飾をおこなっている。ベランダでは花やイチゴを育てたり、催しを行う事もある。	施設全体で、整理・整頓・清掃・清潔・躰の5Sに取り組んでいます。レクを兼ねて四季折々のもの(ハロウィンでカボチャ、Xmasなど)を作り、各部屋の上に飾っています。冷暖房が整い、ウッドデッキに出れば季節のお花が栽培され、苺が育っているなど、季節感を工夫されています。夏の浴衣まつりの写真からも季節のイベントを楽しんでいる様子が伺えました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂の席は出来るだけ気の合う方同士と一緒にになれるよう配慮して決めている。集団を好まない方もいるので個に合わせた席配置としているが孤立してしまったり寂しさを感じないように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所時には馴染みの物を持参して頂き環境の変化を可能な限り最小限にできるようにして頂いている。ご本人や家族の意見を取り入れて個々の空間を設置し、安心して暮らせる環境を一緒に作っている。	居室の窓から外の景色が眺められ、馴染んだ家具など、持ち込みたいものを持参して頂いています。ご家族の写真や飾る写真立て、コルクボードにレクでの作品を飾るなど、個別のレイアウトで雰囲気大切にしています。ご本人やご家族とベッドの位置なども相談し、安心して気持ちよく過ごせる居室づくりを一緒にしています。了解を得た居室を拝見しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	リスク予防も大切に環境づくりをしている。しかし、リスク管理だけを重視しないよう心掛け家庭的な雰囲気の中で安全に過ごせる事を大切にしている。出来る事が安全に出来るよう見守りながら支援している。		